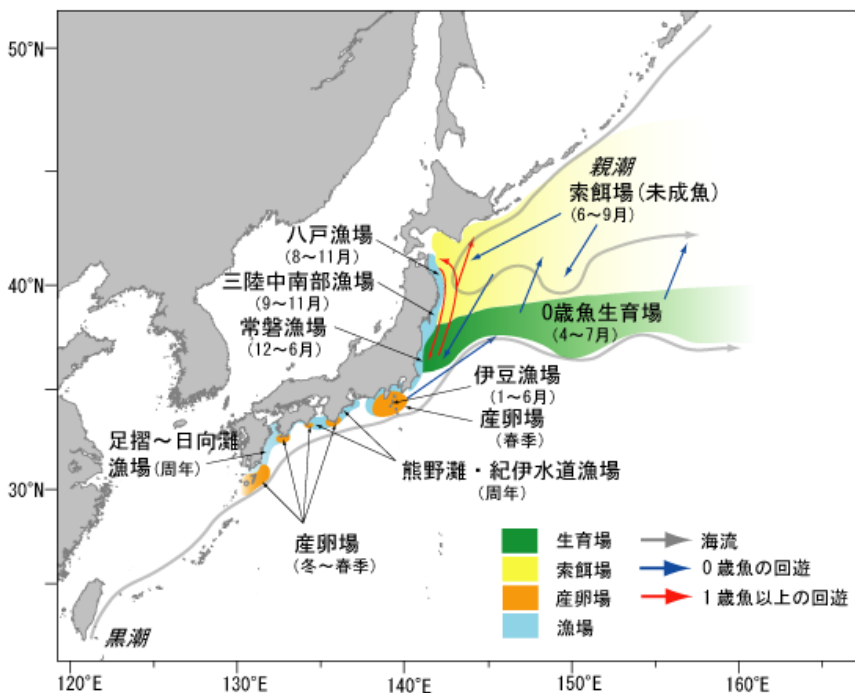




ゴマサバ太平洋系群 平成27年度資源評価結果

1

分布・回遊

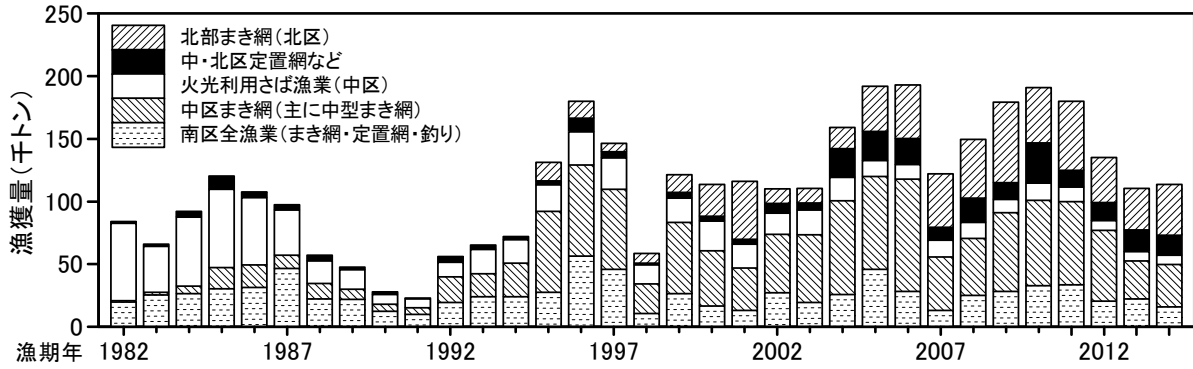


- まき網漁業、たもすくい・棒受網漁業(中区)、定置網漁業、釣り漁業
- 産卵: 12~6月の伊豆諸島周辺海域以西の黒潮周辺域
- 索餌期・索餌場: 夏~秋季、常磐~房総半島以西沿岸、一部は三陸~道東沖まで回遊
- 幼魚は本邦南岸~千島列島東方沖合まで広く分布
- 2歳以上は100%が成熟

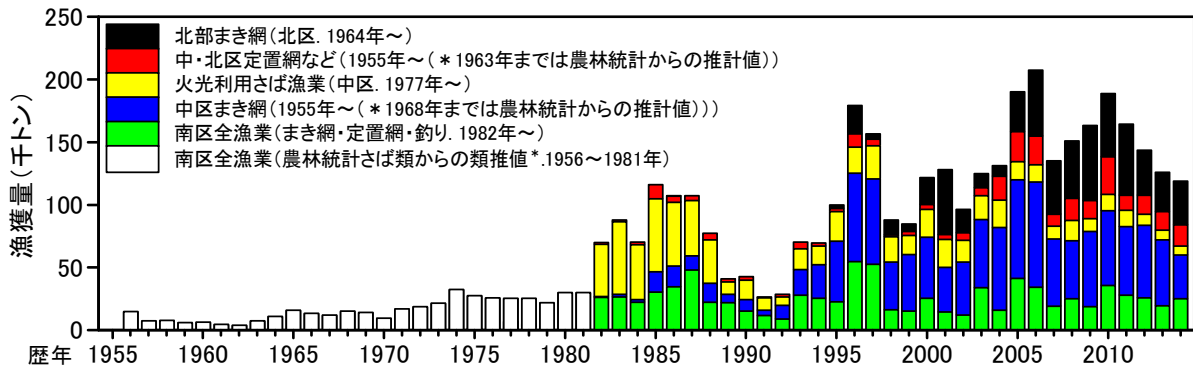
2

漁獲量の推移

漁期年(7月～翌6月)

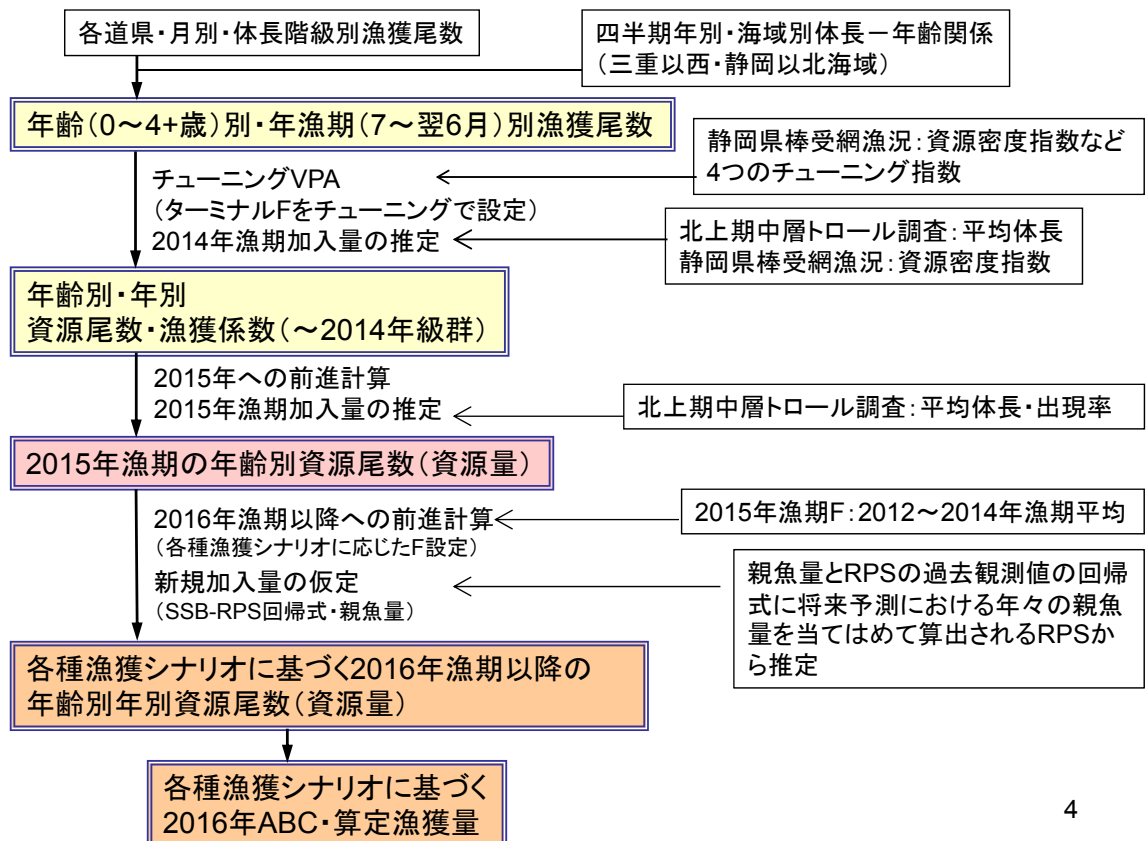


- 1995年以降高い水準 2005-06年は過去最高(19.2万トン)
- 2014年は11.4万トン



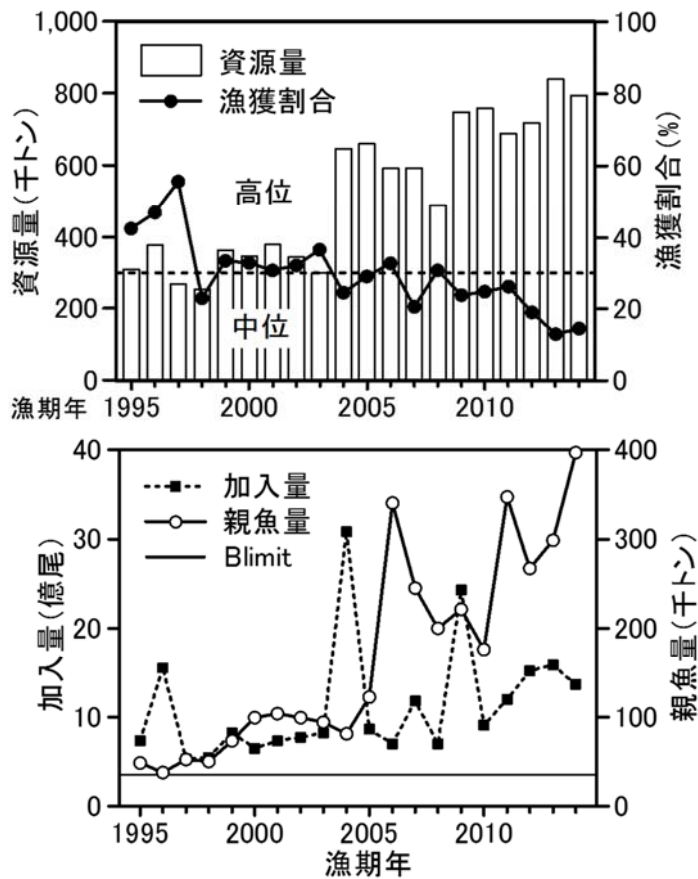
3

資源評価の流れ



4

資源量・親魚量と漁獲割合の推移



●資源量は79.1万トン

●親魚量は39.7万トン

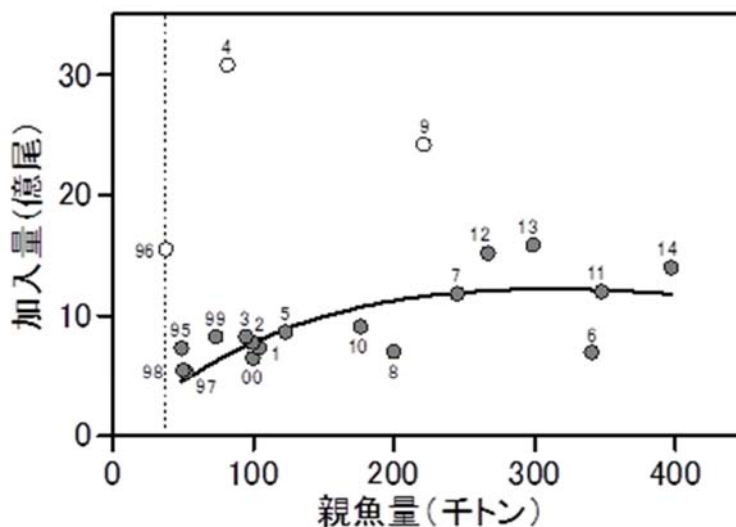
●分布域が拡大して北区での漁獲が増大する資源量30万トンを中位/高位の境界とする

●Blimit親魚量3.8万トンを中位/下位の境界とする

資源状況: 高位
高位・横ばい

5

再生産関係とBlimitの設定

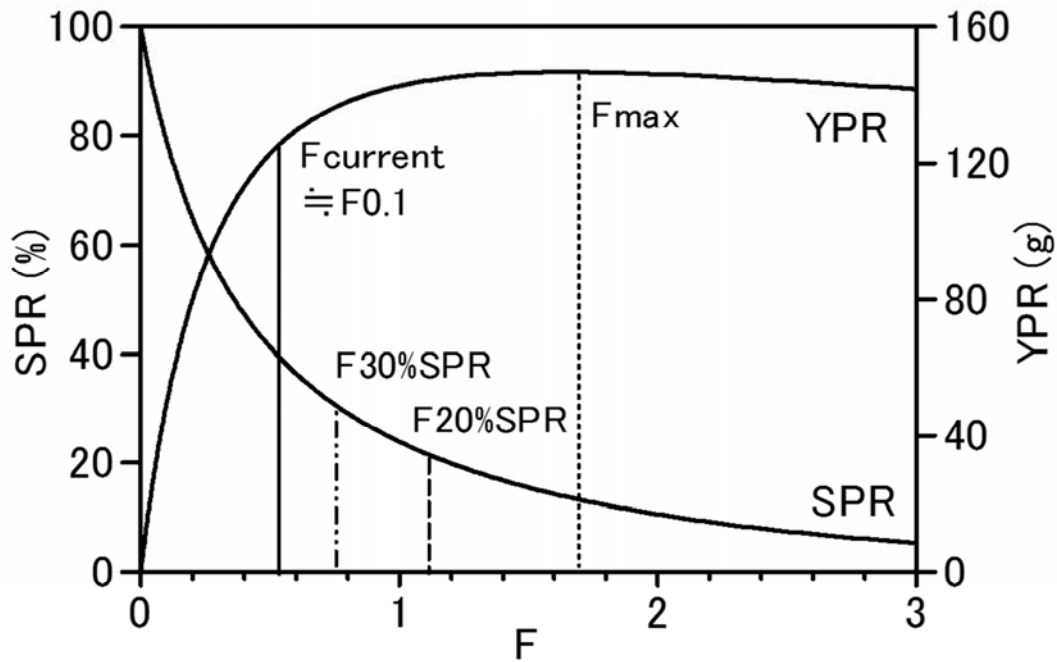


● 1995年以降の親魚量水準では加入量の低下は見られない。しかしながら、1994年以前の親魚量水準における加入量は不明であることから、資源計算を行った1995年以降で最低の親魚量水準である1996年水準(3.8万トン)をBlimitを、とした

● 親魚量と加入量に見られる関係を将来予測に際してのRPSとして使用した

6

生物学的管理基準と現状の漁獲圧の関係



- $F_{current}$ は $F_{30\% SPR}$ より低く、 $F_{0.1}$ と同等
- 現状の漁獲圧は過大でない

7

資源評価のまとめと2016年ABCの算定方法

● 資源評価のまとめ

- 資源状況は**高位・横ばい**（前年度:高位・横ばい）
- 2014年の資源量は79.1万トン
- 2014年の親魚量39.7万トン > B_{limit} 3.8万トン
- $F_{current} < F_{med}$ 漁獲圧は過大ではなく、未成魚選択率高くない

● ABC算定

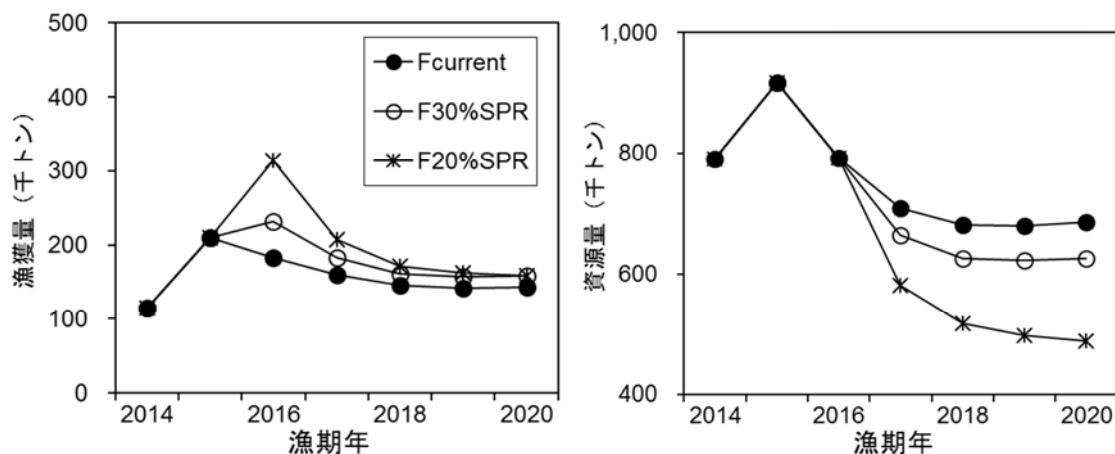
- 規則 1-1)-(1)
- $F_{2015} = F_{current}$ (2012年～2014年の平均)
- 加入量 = RPS (親魚量と加入量回帰) × 親魚量

● 管理基準

- 現状の漁獲圧の維持 $F_{current}$
- 親魚量を高水準で維持 $F_{30\% SPR}$
- 親魚量の維持・漁獲量の増加 $F_{20\% SPR}$
- 上記基準値の予防的措置

8

各漁獲シナリオにおける将来予測



●漁獲シナリオ

- 現状の漁獲圧の維持 Fcurrent
- 親魚量を高水準で維持 F30%SPR
- 親魚量をBlimit維持で維持・漁獲量の増加 F20%SPR
- 上記基準値の予防的措置

● いずれのシナリオでも資源量は近年の高い水準で維持される

9

2016年ABC

漁獲シナリオ (管理規準)	Limit/ Target	F値 (Fcurrent との比較)	漁獲 割合 (%)	将来漁獲量 (千トン)		確率評価(%)		2016年 漁期 ABC (千トン)
				5年後	5年 平均	資源量高位 水準維持 (5年後)	Blimit を維持 (5年後)	
現状の漁獲圧の 維持* (Fcurrent)	Limit	0.37(1.00 Fcurrent)	23	134~ 246	178	100	100	183
	Target	0.30(0.80 Fcurrent)	19	121~ 216	157	100	100	153
親魚量を 高水準で維持* (F30%SPR)	Limit	0.50(1.35 Fcurrent)	29	146~ 282	207	100	100	232
	Target	0.40(1.08 Fcurrent)	25	137~ 261	188	100	100	195
親魚量をBlimit 以上で維持・ 漁獲量の増加* (F20%SPR)	Limit	0.77(2.09 Fcurrent)	40	145~ 313	240	100	100	314
	Target	0.62(1.67 Fcurrent)	34	150~ 309	226	100	100	270

*を付したシナリオは中期的管理方針に合致する

10